慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	
Author	堀江, 湛(Horie, Fukashi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1989
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.62, No.12 (1989. 12) ,p.7- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	田口精一教授 平良教授 退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19891228--007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

田口精一先生は、常磐大学人間科学部の新設組織管理学科の中心教授として、平良先生は、敬虔なクリスチャンとして新設のミッションスクール聖学院大学政治経済学部のキリスト教主義にもとづいた教育を確立する柱となる教授として、それぞれ請われて赴任されることとなり、平成元年三月をもって選択定年でご退職になった。

田口、平両先生は、第二次大戦後の本塾大学法学部が、もっとも困難なときに塾に職を奉じられた。両先生は、英法の峰岸治三先生が第二次大戦中逝去され、浅井清先生が初代人事院総裁として転出され、空席となっていた憲法ならびに英米法という重要科目の専任者として、研究、教育の使命を担うべく、これを分有されたのである。

両先生は、戦争直後廃墟の三田山上で研究者としての途を歩みはじめられ、その後も決して良好とはいい難い研究環境のなかで、孜孜として学問に精進し、それぞれの領域において独自の学風をうちたてるとともに、わが国学会における「三田法学」の名を夙に高からしめられた。併せて、両先生は、後進の指導にも大いに力をいたされ、その薫陶よろしきをえて、今日多くの門下生が、本法学部をはじめとし全国の大学、研究機関において活躍中である。

田口先生は、つねに温顔をたやすことなく誠実なお人柄をもって、同僚、後輩さらには学生達に慕われてこられた。先生は信義を重んじ、人間として譲るべからざる一線は毅然としてこれを護り通された。先生の傍に在って、訥々と

した語り口からほとばしりでる、胸中に秘められた学問に対する烈々たる情熱にふれた者は、自ら身をもってその途を究めることの厳しさを体験することとなる。

一方、平先生は、学部、大学院における懇篤な講義や研究指導を通じ、真理を追求し自己の学識を琢磨することの喜びを教えるとともに、学問研究には、不断の努力が必要であることを示してこられた。そんななかで、たびたびの外国生活により磨かれた平先生のおしゃれは、トレードマークともいうべき蝶ネクタイ姿に凝集され、先生への親しみをいや増すものであった。

法学部将来の発展のためとはいえ、今、両先生が塾法学部を去られるにあたり、やはり「巨星去る」との寂寥の感に耐えざるものがある。しかし後進がすくすくと成長する姿を目のあたりにするとき、喜びと併せ先生方の残された足跡の大なることをあらためて感得し、その学恩に心からなる感謝の意を表するものである。

今後の両先生のご健康とご活躍を祈り、万感の思いを胸に抱きつつ、ここに擱筆としたい。

平成元年十一月

法学部長　堀　江　湛